

## 論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

近年、所得格差や資産格差が広がっていると感じる人は多いだろう。何億円もする都内のタワーマンションが飛ぶように売れる一方、貧困に苦しむ家計の数も増えている。資本主義経済は経済を活性化すると同時に、貧富の差を広げるものであるようだ。ウィナー・テイク・オール(勝者総取り)である。

貧富の差が広がることは、社会を不安定化させる。勝者総取りで所得の多くは一部の人々に集中するが、残りの多くの人は社会の状況に不満を募らせる。

18世紀から19世紀にかけて、英国では産業革命によって経済は大きく成長した。しかしそのような成長の果実は一部の資本家に独占され、多くの労働者の貧困状態が続いた。そうした状態に不満を抱

# 格差拡大 分配政策が重要

いた人々が暴動を起こした。ラッダイト運動と呼ばれる機械打ち壊しも広がった。資本主義の下での格差拡大が社会を不安定化させたのだ。

社会を安定化させるため、英国では社会制度の改革が進められていった。初等教育の無償化が進められ、医療や年金などの社会保障制度が充実され、金持ちから多くの税金を徴収する累進課税の制度が強化されていった。「ゆりかごから墓場まで」とも呼ばれる充実した社会保障制度によって国民の生活を守ろうとした。

こうした制度は社会を安定化するものであると同時に、資本主義を守るものでもあった。損得むき出しの資本主義経済だけでは、格差の拡大などにより社会の安定化は実現できない。そこで社会保障制度などを充実させることによって社会を安定化させることで資本主義を守ろうというのだ。資本主義を守ることによって経済力は増してくる。ただ、資本主義だけでは社会の安定は確保できない。だから、資本主義と社会保障制度の両方が必要となるのだ。

このような考え方は、現在の日本にも当てはまる。冒頭で述べたように、日本では所

得格差や資産格差が深刻な形で広がっている。かつて日本では「一億総中流」と言われていたように、大半の人が中流意識を持っていた。格差があまりないことが日本社会の強さでもあった。しかし今や、格差の広がりの中で一億総中流は死語になりつつある。それだけ資本主義経済が強化されてきたということでもある。デジタル技術などの革新が加速化し、グローバル化が広がっていることが、資本主義経済を強化させているのだ。技術革新やグローバル化で経済成長が促進されることは結構なことだが、それによって格差が広がることで社会が不安定化することは好ましくない。

強化された資本主義から国民を守るためには、社会保障制度をはじめとした分配政策を強化させる必要がある。日本社会で格差の拡大が顕著になっていることは、分配政策の重要性が増していることを意味する。分配政策は、教育支援、社会保障制度、税制などを通じた所得の再分配など、さまざまなものが考えられる。こうした分配政策を通じて一億総中流とまでいかなくとも、分厚い中間層を形成することを目指したいものだ。